



## □ 特集

令和元年度自作視聴覚  
教材交流発表会

## □ 秋田県教育研究発表会

□ 2019調査研究事業から  
アンケート調査の概要

秋田県生涯学習センター(編集:社会教育アドバイザー)

## 特集!

## 令和元年度(第69回) 秋田県自作視聴覚教材交流発表会

令和2年2月21日 秋田県生涯学習センター

本交流発表会は、学習の場で役立つ視聴覚教材の自作活動を促進するため毎年開催されています。69回目となる今回は、幅広い年齢層から3部門15作品(小学校7、中学校1、社会教育7)のエントリーがあり、制作者や見学者、社会教育関係者など多くの方々が参加しました。審査結果は、次のとおりです。

## 最優秀賞



「ジオサイト案内書3 秋の宮(役内)/秋の宮温泉郷」

メディアバンクみるわーく 畠山 仁

(2020年度全国自作視聴覚教材コンクールへ推薦)

## 優秀賞

「郷土の偉人 仁部富之助」

神岡地域学校協働本部 鈴木 三郎

「目指そう!!秋田の方言達人!!」

横手市立朝倉小学校 高城 琉花



【自作視聴覚教材交流発表会参加者の皆さん】

## 優良賞

「秋田のつけものパワーのひみつをさぐる」

横手市立朝倉小学校 熊谷 ひなた

「地球の公転による見える星座の変化」

秋田大学 鎌田 名安子

「横手の発酵文化」

横手市立朝倉小学校 高木 蓮

「末野の鍾馗様」

メディアバンクみるわーく 小野 まさる

「教えたい ひやじのひみつ」

横手市立朝倉小学校 見上 一馬

「あぐりこさま」

メディアバンクみるわーく 中川 文子

「5年1組1日探偵事務所」

横手市立朝倉小学校 佐藤 優羽

「まるごと全部つたえちゃいます!~大曲の花火のみりよく~」

横手市立朝倉小学校 地主 梨乃・岡田 果桜・我妻 心

「保育園と学校のくらし方は、どんなちがいがあある…」

横手市立朝倉小学校 高橋 瑠輝奈

「おばあちゃんとわたしの料理教室」

横手市立朝倉小学校 松井 結愛

「自学のメリットとデメリット」

横手市立朝倉小学校 鈴木 愛果・小野 咲空

「風邪の真実」

横手市立朝倉小学校 柴田 一葉

＜出品作品は、当センターにて視聴、貸し出しができますのでご活用ください。＞

当日は、悪天候にもかかわらず県内外から約220名の教育関係者が参加しました。県内教職員の研究発表は66件に上り、内10件が「学校と地域の連携・協働」、「生涯学習」に関する内容でした。

秋田市立下新城小学校猿田尚教頭からは、「コミュニティ・スクール導入による学校・地域・家庭の連携方策」と題した発表があり、学校運営協議会の組織づくりに関する具体的な提案がなされました。

また、当センター相澤徹研修員からは、今年度の調査研究からヒントを得た「障害者の生涯学習支援の在り方」のテーマでポスター発表がありました。発表後半は、学校在学時から始める障害者の生涯学習支援について、参会者との活発な意見交換で盛り上がりしました。【当センター相澤研修員の発表の様子】



## ミセミナー

県生涯学習センター 2019年度新規事業「障害者の生涯学習」に関する調査研究

## 「障害のある方の生涯学習に関するアンケート」集計結果(一部)

当センターでは、「障害のある方の生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)」の現状やニーズ、課題等の把握を目的に、県内の特別支援学校高等部生徒及び卒業生(3年以内)の保護者を対象にアンケート調査を実施しました。主な集計結果は、既に「概要版」にてお知らせしているところですが、調査研究全体のまとめについては、集計結果等に基づく検証や考察を重ねた上で令和2年度に報告する予定です。なお、「概要版」は当センターホームページに掲載していますのでご覧ください。

| Q 生涯学習で続けていることは？                                                                                                                                                                       | Q 生涯学習を続けている理由は？ (全国比)                                                                                                                                                                                             |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 健康の維持・増進、スポーツ活動 23.3%<br><input type="checkbox"/> 余暇・レクリエーション活動 20.8%<br><input checked="" type="checkbox"/> 特にやっていない 50.1%<br><「特になし」が半数以上と圧倒的に多い>           | <input type="checkbox"/> 経験を通して成長するため 58.1%(+12.3)<br><input type="checkbox"/> 交流の機会や友人を得るため 52.5%(+23.2)<br><input type="checkbox"/> 健康の維持・増進のため 44.2%(+ 6.2)<br><input type="checkbox"/> 人生を豊かにするため 38.3%(+ 6.8) |
| Q 生涯学習をどのようにして続けているか？                                                                                                                                                                  | Q 生涯学習に関する課題は？                                                                                                                                                                                                     |
| <input type="checkbox"/> 自宅での学習活動(書籍など) 28.6%<br><input type="checkbox"/> 障害福祉サービスの講座や余暇活動 21.2%<br><input checked="" type="checkbox"/> 公民館等公的機関の講座や教室 2.7%<br><「一人自宅」型多く、公的機関の講座等少ない> | <input type="checkbox"/> 生涯学習に関する情報がない<br><input type="checkbox"/> 生涯学習の機会がない<br><input type="checkbox"/> 一緒に学ぶ友人、仲間がいない<br><input type="checkbox"/> 学ぶ際に手助けしてくれる支援が少ない                                            |

## 七色

ここ数年、社会教育や生涯学習の場では地域学校協働活動などを通して、子どもと大人と一緒に学んだり作業したりする機会が増えてきました◆大人は「どうすればいいのか」の経験上のノウハウを子どもに伝えようとしします。しかし、「伝える、伝えられる」だけでは、昨今のグローバル化社会における多様性や異文化性の中で求められる「自分で考え、他人としっかり話し合う」という洞察から導かれる創造への道筋が不鮮明です◆子どもが本当に知りたいのは「どうすればいいのか」に続く「なぜそれがいいのか」です。子どもによる「なぜ」の追求は、時として、大人の経験を超える他の可能性を見出します。子どもには、そんな問いを誘発する学びの環境が必要です◆「少にして学べば壮にして為す。壮にして学べば老いて衰えず。老いて学べば死して朽ちず(『言志四録』佐藤一斎)」。大人の、とりわけ高齢者の生涯にわたる「なぜ」、「何のために」と向き合う姿こそが、それを見て感じる子どもの学びの環境となり得ます◆「Boys, be ambitious like this old man. 少年よ、この老人のごとく大志を抱け(W.S. クラーク)」。社会全体が激しく変化する中、志を抱き続ける「行動人」の矜持を貫きたいものです。